

北海道渡島地域

森林施業の集約化・低コスト化の推進と担い手の育成・確保

重点プロジェクト① 意欲と能力のある林業経営体の育成

新技術や地域に馴染みのない施業技術の導入検討

【現状と課題】

- 渡島地域は北海道南部に位置し、スギを中心とした人工林資源の多くが本格的な利用期を迎えているが、道内でも急峻な地形なため、高性能林業機械の導入があまり進んでいない。
- このような中、森林づくりを担う人材不足が懸念されており、限られた労働力で適切な森林の整備・管理を進めるため、ICT等の先進技術を活用した、スマート林業の導入を図る必要があるものの、まだ認知度が低い状況にある。

【取組概要】

- 当地域でスマート林業の普及を図るため、事業者向け現地実演会の開催や事業者での試行などの取組みを行った。
 - スマート林業技術の実演会の開催(図1)
 - ICTハーベスタ、レーザ計測、写真丸太検知、森林測量ドローンなどの実演会を実施
 - 造林機械の実演会の開催(図2)
 - 植付や下草刈りなどは人力が主流で、特に機械化が進んでいないことから、造林作業の機械化を図るための実演会を実施
 - 新技術導入の検討(図3)
 - 実際の現場において、ICTハーベスタによる造材作業の効率性や操作の違いを一定期間使用して確認
 - 昨年度実施した航空レーザの研修会や今年度の現地実演会を踏まえ、興味を持った地域事業者が導入を検討

【取組の成果・効果】

- 現地実演会などの開催により、素材生産事業者や造林業者、木材加工業者などスマート林業への理解を深める機会とすることができた。
- さらに、一部の事業者ではレーザ計測の取組みが始まった。

【取組が進んだ要因】

- 実演会などの取組みにより、実際に「スマート林業技術」に触れる機会を創出することで、元々興味を持っていた林業事業者における取組みのきっかけとなった。

【これから取組む地域へのアドバイス】

- 様々なスマート林業技術があることから、興味、関心が異なる事業者に対して、広く活用方法などの情報発信をしていくことが普及に繋がる。

担当者:連絡先
北海道渡島総合振興局
産業振興部林務課 小川 啓匡
メール:ogawa.takamasa@pref.hokkaido.lg.jp
電話:0138-47-9471



図1 ICTハーベスタ(上)、ドローン(下)の実演



図2 コンテナ苗運搬機の実演

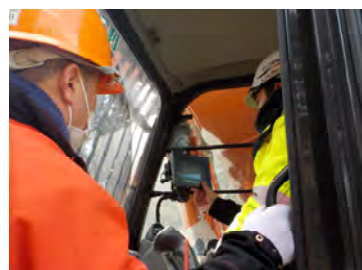


図3 新しい技術の導入の検討
(上)ICT機能を活用し丸太の生産状況を確認
(下)ICTハーベスタの計測精度を確認